

## 平成30年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

地域に根ざした総合学科高校として、多様な人々がともに生きる社会の形成者を育成する学校

- 1 総合学科の特性を活かし、多様な生徒の多様な学びと多様な進路実現を保障する。
- 2 人権教育を軸にして、主体的に社会に参画し、他者と協働できる資質・能力を育む。
- 3 地域とともに学び、地域の教育力の向上に貢献する。

## 2 中期的目標

## 1. 総合学科の特性を活かし、「確かな学力」を育む

## (1) 総合学科の特色を生かしたカリキュラムマネジメント推進体制の確立

- ア 生徒の学力を把握・分析し、本校の取組みを評価・改善していくシステムを確立する。
  - ・生徒の生活実態、学習状況、進路意識等に関する調査を継続的に実施する。
- イ 学習意欲を高め、「受験対応の学力」と「生涯にわたり学び続ける学習力」を育むカリキュラムを再編する。
  - ・次期学習指導要領の趣旨を踏まえ、多様な科目の内容を一層充実させるとともに、科目どうしの系統性を考慮したカリキュラムを編成する。
  - ・生徒の学びへの意欲向上と学習習慣の確立をめざし、家庭の理解と協力を求めるとともに、幅広く外部人材の活用も進める。

## (2) 生徒が安心して安定した高校生活を送るための環境整備

- ア 生徒の支援体制、相談体制を整える。
  - ・SSWと協働し、生徒を支援する体制を整え、具体事例への対応をすすめる。
  - ・教育相談体制を整備し、不登校や退学を防止する。
- イ 生徒の自律・自立に向けた生活指導・キャリア教育を推進し、将来展望を持って積極的に学ぶ意欲を養う。
  - ・自他を尊重し、様々な人が共に生きる社会で通用する規範意識を育む。
  - ・生活背景をふまえた生徒理解をもとに丁寧な生徒指導を行う。

## (3) 教職員が自ら学び、専門性を高め、質の高い教育実践を推進する組織づくり

- ア 教員の授業力向上を不断に進めるためのシステムづくりと条件整備を行う。
  - ・業務の適正化、効率化を組織的に進め、教員が授業づくりにかける時間を確保する。
  - ・校内授業研究を継続的に実施し、教員の授業力を向上させる。
- イ 計画的な教員研修の実施、教職員の様々な研修への参加、他校との交流を積極的に進める。

## 2. とともに生きる社会の形成者としての資質、能力を育む

## (1) キャリア教育の充実

- ア これからの社会で必要とされる資質・能力を踏まえ、「社会への扉（産業社会と人間、総合的な学習の時間）」及び「課題研究（総合的な学習の時間）」の充実を図る。
  - ・総合学科の学びの柱として、3年間を見通した系統的な学習プランに基づき、全教職員の共通理解のもとに進める。
- イ キャリアガイダンスの拠点としての「インフォメーションルーム」を活用し、本校のガイダンス機能を充実させる。
  - ・学習や進路に関する情報を得られる場として、生徒が積極的に活用できる環境づくりを進める。
  - ・生徒からの相談に応じて適切な支援を行えるよう、教員のスキルを高め、就職率100%を維持し、希望進路決定率95%以上をめざす。

## (2) 生徒の自主活動育成

- ア 生徒会・委員会活動をさらに充実させる。
  - ・生徒が学校づくりに参画していけるような支援体制を整える。
  - ・地域で活動する様々な団体等と連携し、社会にも働きかける活動を行う。
- イ クラブ活動を活性化する。
  - ・生徒のクラブ加入率を高めるための条件整備を進める。
  - ・クラブ活動を支える条件整備、クラブ顧問の指導力向上、外部人材の活用等により、クラブ指導体制の充実を図る。

## (3) 人権尊重の学校づくり

- ア 人権が尊重される学校文化の確立
  - ・生徒が人権の課題を自分の課題としてとらえ、確かな人権感覚を養う系統性のある学習を継続する。
  - ・教職員の人権に関する知識や感性を常にハイレベルで維持し、すべての教育活動を通して、人権教育を行う。
- イ 配慮を要する生徒への支援を全ての分掌・教科・学年等の連携により進める。
  - ・日本語指導が必要な生徒、障がいのある生徒等に対する支援体制を整える。
  - ・配慮を要する生徒が他の生徒との関わり、ともに成長できる集団づくりを進める。

## 3. 地域と連携・協働し、ともに地域の教育力の向上をめざす

## (1) 家庭・中学校・地域との連携強化

ア 保護者の学校教育への理解と参画を促進するとともに、家庭の教育力を高めるための支援を行う。

- ・学校教育目標やその実現に向けた取組みについて保護者に丁寧に説明し、協働して子どもを育成していける信頼関係を構築する。
- ・保護者対象の講演会等を企画し、保護者が子育てに関する情報を得たり、相談をしたりできる機会を作り、家庭の教育力を高められるようにする。

イ 中学校と日常的な情報共有を行い、信頼関係を築き、連携をさらに強化する。

- ・中学校に対して本校の取組みを積極的に発信し、生徒の成長を見守り、支援していただける関係づくりを行う。

## (2) 地域の社会教育資源を活かした教育実践の実施

ア 本校の教育活動を積極的に地域に発信し、次代を担う若者の育成についての理解と共感を得る。

- ・本校ホームページでの発信をはじめ、地域の方々に本校をご覧いただく機会を増やし、本校の教育活動への理解を高め、教育のあり方についてともに考えられる関係をつくる。

イ 本校の教育を理解し、参画していただける方を増やす。

- ・「社会への扉」や「課題研究」の取組みをはじめ様々な取り組みにおいて、生徒が地域に出て学ぶ機会を積極的につくり、地域の方々の理解を得るとともに協力を仰ぐ。

## (3) 地域との協働を深め、地域の教育力向上に貢献する。

ア 地元中学校区地域教育協議会に参画を通して、学校の教育資源を地域の教育力向上のために活用する。

- ・地域の教育機関との連携を深め、協働して子どもを育む顔の見える関係をつくる。
- ・本校の特色のある授業や施設を地域に開放し、地域の方々の学びの場、活動の場として提供する。

イ 生徒の学習活動の中に、生徒が地域課題を理解し、課題解決の方法を考え行動する取組みを行う。

- ・「社会への扉」の授業や生徒会活動等において、生徒が社会で活動する方々と協働する機会をつくり、生徒の社会参画への意識を育てるとともに、地域の課題解決に寄与する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【1年生】</p> <p>1. 肯定的評価が80%を超えている項目 14項目(52項目中)</p> <p>①学校の特色・教員の姿勢、態度に関すること(プライバシー保護、ICT機器活用、学習形態の工夫、教員が協力した生徒指導)</p> <p>②キャリア教育、人権教育に関すること(生き方を考える機会、人権教育、命の大切さや社会のルールを学ぶ機会)</p> <p>2. 否定的評価が40%を超えている項目 10項目(52項目中)</p> <p>①他校種、地域との交流に関すること(支援学校、幼稚園・保育園等、地域との交流機会) ②文化についての学びに関すること</p> <p>③その他(清掃の状況、部活動、学校のHPの閲覧、頭髪指導の重要)</p> <p>【2年生】</p> <p>1. 肯定的評価が80%を超えている項目 17項目(52項目中)</p> <p>①学校・教員の姿勢、態度に関すること(学校の特色、プライバシー保護)</p> <p>②キャリア教育、人権教育に関すること(将来の進路や生き方について考える機会、人権教育、命の大切さや社会のルールを学ぶ機会、授業選択)</p> <p>2. 否定的評価が40%を超えている項目 8項目(52項目中)</p> <p>①他校種、地域との交流に関すること(支援学校、幼稚園・保育園等、地域との交流機会)</p> <p>②文化についての学びに関すること ③その他(清掃の状況、部活動)</p> <p>【3年生】</p> <p>1. 肯定的評価が80%を超えている項目 33項目(63項目中)</p> <p>①学校の特色・施設、教員の姿勢、態度に関すること(総合学科らしさ、秘密保持、気軽に相談できる、親身に対応、学習形態の工夫、図書館)</p> <p>②キャリア教育、人権教育に関すること(進路情報、進路を考える機会、人権教育、科目選択ガイダンス、選択科目、課題研究)</p> <p>③身についた力・学んだ成果に関すること(考える力、自主性、話す・聴く力、高校生活の充実)</p> <p>2. 否定的評価が40%を超えている項目 3項目(63項目中)</p> <p>①支援学校と交流する機会 ②清掃の状況 ③学校HPの閲覧</p> <p>【保護者】</p> <p>1. 肯定的評価が80%を超えている項目 21項目(42項目中)</p> <p>①教育の成果に関すること(学校行事、学校の雰囲気、生徒会活動)</p> <p>②教育の内容に関すること(新しい教育課題、人権、規範、豊かな心)</p> <p>③教員の姿勢に関すること(プライバシー保持、独自の教育活動、相談対応)</p> <p>2. 否定的評価が40%を超えている項目 2項目(42項目中)</p> <p>①PTA活動への参加 ②学校HPの閲覧</p> <p>*生徒の否定的評価が高い、支援学校等との交流機会、清掃状況、部活動等について、改善していけるよう検討する。</p> <p>*保護者に本校教育への理解をさらに深めるために様々なツールを活用し、日常的な情報提供を行い、併せてPTA活動への参画も求めていく。</p>	<p>【第1回 6月6日(水)】 テーマ「総合学科の特性を活かした魅力化のアイデア」[取組全般について]・学校の取組の成果が、総合学科アンケートの結果に現れている。「社会への扉」の取組みが良いと感じた。・多岐にわたる取組みに感心している。「何をどうやって」ではなく、「なぜするのか」について共有することが大切だ。[多様性を大切に教育]外国にルーツのある生徒がたくさんいて、多様性をさらに追求し、総合的な学び等の中で生徒に広い世界をみせていくような取組みができると思う。</p> <p>[スマートフォンの使用について]・小学校高学年ではスマホの使い方が問題になっている時代だ。地域の連携を活かして、八尾北高生が地域の中学生にSNSの活用の仕方を教える等の取組みが生徒の力をつけるのではないかと。・中学生のスマホ保持率は9割。すっかりコミュニケーションのツールになっている。SNSのトラブルも多い。・大人も勉強しないといけない。子どもが保護者に教えるというのもいいかもしれない。</p> <p>【第2回 11月6日(火)】</p> <p>○テーマ1「生徒の学力向上のために」・中学校では、子ども同士がキャッチボールする授業づくりに取り組んでいる。教員は引き出す役で、子どもの中に何が起きているかを見てとれる能力が求められる。・学ぶ意欲が低いというが、子どもの学びたいという意欲の前に立ちはだかっているものについて、認識しないといけない。・生徒の力を引出そうという教員の熱意が大切だ。・子どもの教育を活かしていく地域の支え、環境づくりも大切だ。わからないことを「わからん」と言える信頼関係も必要だ。</p> <p>○テーマ2「生徒の遅刻を減らすために」・大学でも同じような傾向がある。・中学校でも多い。中学で改善されないまま高校に進学している。・なぜ遅刻するのかという理由は一人ひとり違う。それを丁寧に引き出していく必要がある。なぜ遅刻してほしくないのかもしっかりと伝えたい。・遅刻してくる子に生徒たちみんなが声をかける「パッチワークケア」を重ねるなど、子ども同士のメッセージの出し合いも効果的だ。・子どもがどれだけ自立できるか、それをどうサポートするか。保護者の協力を得ながら、スマホ依存、アルバイト等、睡眠時間を短くする要因を除き、生活をマネジメントする力を育成する取組みが必要だ。</p> <p>【第3回 2月5日(火)】</p> <p>○テーマ「学校教育自己診断」の結果から見える課題/「学校経営計画」今年度の評価と来年度の計画について</p> <p>・自己診断(教員)の中で「教員同士が話し合う」項目が低い。教員が忙しすぎる状況ではないか。・軸を定めて話し合う機会を意識的につくるのが大切。踏み込むことで同僚性が高まる。・自己診断(生徒)では、3年生の肯定的評価が非常に高い。親身に関わってきた成果だ。ICTの活用、授業の工夫も上がっているの、このまま伸ばしてほしい。「学校経営計画」について承認。・学校経営計画の3つの柱の「地域連携」の部分が特に興味深い。これからは保護者が学校教育に関わっていくようなしなかけが必要だと思う。・保護者の立場からはやはり、学校から保護者への発信をさらに進めてもらいたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 総合学科の特性を活かし、「確かな学力」を育む	(1) 総合学科の特色を生かしたカリキュラムマネジメント推進体制の確立	<p>ア. 学習指導部はガイダンス部と協働し、年間2回実施する学力生活実態調査を分析し、生徒の学力向上のための課題を整理し、各教科の授業プランに反映させる。</p> <p>イ. カリキュラムマネジメント推進委員会に新メンバーを加えて4月から始動させ、本校教育課程の改編を中心に、他の教育課題を整理し、「確かな学力」を育むカリキュラムマネジメントサイクルを確立する。</p>	<p>ア. 学力生活実態調査の分析結果のまとめを作成。(教職員間で共有し、学力向上に向けた各教科での検討材料とする。)</p> <p>イ. カリキュラムマネジメント推進委員会を月1回開催。前期中に「課題整理」をまとめ、年度内にマネジメントサイクルのグランドデザイン原案をまとめる。</p>	<p>ア. 学力生活実態調査の結果をもとに分析会を実施。教科ごとに学力向上に向けた方策を協議。(○)</p> <p>イ. カリキュラムマネジメント推進委員会を月1回のペースで開催。基本方針と生徒につけたい資質・能力を検討。小委員会を開催し、新カリキュラムで具現化する方策をまとめた。(○)</p>
	(2) 生徒が安心して安定した高校生活を送るための環境整備	<p>ア. 生活指導部保健担当が、SSWと連携した生徒支援を全教職員の共通理解とともに進められるようにする。</p> <p>イ. 生活指導部生徒指導担当を中心に、丁寧に全教職員の意思統一を図りながら、生徒の生活背景をふまえた生徒理解のもと、生徒の規範意識と自律の精神の高揚を図る取組を行う。</p>	<p>ア. SSWと連携した生徒支援の意義、方法等についての共通認識を持つための研修会を開催。月1回の連絡会を実施。</p> <p>イ. 遅刻指導、身だしなみ指導等の日常的な取組みについて全教職員で意思統一し、協力して指導にあたる。遅刻件数3,000件未満。</p>	<p>ア. 職員室にSSWの方の席を設けた。SSWとの研修会1回、情報共有、具体的な課題検討会を7回実施(4、8、2、3月を除く毎月)。全教職員の理解がさらに深まった。(○)</p> <p>イ. 全教職員で共通認識を持って生徒との対話を大切にしながら、継続的、段階的に指導している。遅刻件数についての成果はまだ見られない。3601件(△)</p>
	(3) 教職員が自ら学び、専門性を高め、質の高い教育実践を推進する組織づくり	<p>ア. 授業準備や生徒と向き合う時間の確保のために、全ての分掌・担当・学年が業務の適正化・効率化のためのプランを提示し、具体的に進める。また学習指導部が授業力向上のため、校内研究授業等の具体的取組を進める。</p> <p>イ. 様々な研修機会を有効に活用するとともに、他校の実践収集を積極的に行う。</p>	<p>ア. 業務適正化・効率化プランを作成・実行し、超過勤務時間数を削減。授業力向上のための、授業見学会・研修会を授業公開週間(年間2回)に併せて実施。</p> <p>イ. 研修資料及び報告書を全教職員に周知。</p>	<p>ア. 各分掌、学年において、業務の適正化・効率化のための方策を実施。授業見学会、研修会を2回実施。(○)</p> <p>イ. 研修資料等については職員室で閲覧できるようにした。また職員会議等の機会に情報提供を行った。新カリキュラム編成に関連して、他校を視察(2回)、交流学習に際して、事前視察(1回)を行うなど、積極的に他校の実践収集を行った。(○)</p>
2. ともに生きる社会の形成者としての資質、能力を育む	(1) キャリア教育の充実	<p>ア. ガイダンス部社会への扉担当は、3年間の学習プランに基づき、各学年団と連携し、科目担当者間の共通理解を深めながら、総合学科の学びの柱としての「社会への扉」「課題研究」の充実を図る。</p> <p>イ. ガイダンス部進路支援担当は進学希望者の指導について、インフォメーションルームや自習室の効果的活用を含め、1年次からの指導プランと指導体制の整備を行う。</p>	<p>ア. キャリア教育としての位置づけの上に、探求要素の盛り込み、地域人材の活用、社会への発信の3つの観点の強化を図り、社会に関わる力を育成する取り組みの成果を評価。</p> <p>イ. 各学年での進学セミナーの計画的実施。セミナー参加者・自習室利用者の拡大。学力生活実態調査の結果分析をふまえた相談・支援体制の整備。大学等への進学指導体制の強化。</p>	<p>ア. 1年生「ソーシャルデザインワーク」の取組において、地域課題に関する提案を行い、地域専門家(6人)から評価いただく取組を実施。いずれも高評価を得た。(◎)</p> <p>イ. 各学年と教科が連携して進学指導体制を整え、進学セミナーを実施。ガイダンス室前に設置したデジタルサイネージの活用、資料保管棚の整備等により、インフォメーションルームや自習室の効果的活用ができている。(○)</p>
	(2) 生徒の自主活動育成	<p>ア. 生活指導部生徒会担当は、学校の課題について自ら考え、解決していけるよう、現在の生徒会、委員会活動の一層の充実を図る。</p> <p>イ. 会議の縮減、業務割当ての配慮により、顧問が部活動指導を十分に行える条件を整えとともに、生徒の部活動加入率を高めるための生徒への働きかけ等具体的対策を行う。</p>	<p>ア. 自己診断の生徒会行事に対する参加意識の向上。(昨年度70%)</p> <p>イ. 進学セミナー担当など授業時間外の業務の割り当てを工夫し、全教員による指導体制の整備。現状の部活動加入率の維持。(昨年56.5%)</p>	<p>ア. 生徒会執行部員育成の成果により、生徒の自主活動への参加意識が向上している。72.4%(○)</p> <p>イ. 会議回数や時間の縮減による指導時間の確保、各部活動方法の工夫により、指導体制を整備した。部活動加入率は54.8%であり、現状を維持している。(○)</p>
	(3) 人権尊重の学校づくり	<p>ア. 人権教育担当は、3年間の人権学習プランに基づいて人権学習を進めるとともに、すべての教育活動が、人権教育の視点に立って行われるように教職員に働きかける。</p> <p>イ. 配慮を必要とする生徒について、全教職員が共通理解をもって対応できるよう、学年会議等での情報交換を確実に行う。</p>	<p>ア. 自己診断の人権の取組みについての意識80%台を維持。自己診断(教職員)人権尊重に関する十分な話し合い58%(昨年54%)</p> <p>イ. 配慮を要する生徒が安心して学校生活を送っていること、及び生徒の満足度の確認。</p>	<p>ア. 3年間の人権教育学習プランに基づき実施。全教員による丁寧な事前研修を行い、生徒の心を動かす学習ができている。生徒84.5%、教員62.0%(○)</p> <p>イ. 全教職員が共通理解を持って対応できており、当該生徒は安心して学校生活を送っている。(○)</p>

## 府立八尾北高等学校

3. 地域と連携・協働し、ともに地域の教育力の向上をめざす	(1) 家庭・中学校・地域との連携強化	<p>ア. <b>ガイダンス部地域連携担当とPTA担当の協働</b>により、保護者への積極的な<b>情報提供</b>を行い、本校の教育活動への理解を深める。</p> <p>イ. 生徒の出身中学校と日常的な情報交換を行い、信頼関係を築き、連携して生徒を支援できるようにする。また<b>ガイダンス部地域連携担当</b>は本校の教育活動を積極的に発信する。本校のホームページを、中学生の高校選びの参考となるようにする。</p>	<p>ア. 保護者対象講演会等の企画をPTA役員の協力を得て実施。 自己診断(保護者)学校の教育方針の理解 77% (昨年 74%)</p> <p>イ. 全教員による中学校訪問(年2回)の実施。日常の連携関係の維持。生徒の入学目的や生活背景の把握。本校ホームページの定期的更新(月1回)。</p>	<p>ア. 保護者対象講演会を2回実施、保護者対象体験授業の実施、メルマガの積極的活用などにより、保護者理解は高まっている。86.7% (◎)</p> <p>イ. 中学校訪問は2回実施。中高連携による生徒支援を行う信頼関係はできている。ホームページは月1回更新した。また中学生の利用促進を目的に、大幅な改訂も行った。(○)</p>
	(2) 地域の社会教育資源を活かした教育実践の実施	<p>ア. <b>ガイダンス部地域連携担当は情報担当と連携</b>し、本校ホームページでの発信など、様々なツールや機会を利用して、保護者や地域の方々の学校理解を深め、本校への協力を得られるようにする。</p> <p>イ. <b>ガイダンス部社会への扉担当</b>は、「社会への扉」「課題研究」をはじめ、多くの授業や取組みにおいて、生徒が地域の教育資源を活用したり、地域の方を学校に招いたりする機会をさらに増やす。</p>	<p>ア. 学校行事への保護者・地域の方々の来校機会の拡大と来校人数。</p> <p>イ. 地域の教育資源を活用した取組みを、各学年で年間複数回実施。選択科目の取組みとしても複数の科目で実施。</p>	<p>ア. 授業公開週間等の本校の取組みについての周知を保護者のみならず、地域、中学校に広げた。体育祭・文化祭等の学校行事への来校人数は昨年度の780人から今年度は850人(ともにのべ人数)と増加した。(○)</p> <p>イ. 選択授業でのゲストティーチャー、就職希望者模擬面接での面接官、クラブ活動における特別講師、地域の企業(21社)による仕事説明会等、様々な場面で地域の方に来校いただき、協力を得た。(○)</p>
	(3) 地域との協働を深め、地域の教育力向上に貢献する。	<p>ア. <b>人権教育担当</b>を中心に、地域教育協議会に引き続き積極的に参画するとともに、保・幼・小・中・高の連携をさらに促進できるよう、顔の見える関係づくりを進める。また本校の特色ある授業や施設を地域の教育力の向上に役立てる取組みを行う。</p> <p>イ. 1年次「社会への扉」の<b>社会リサーチ</b>等の取組みにおいて、地域の具体的課題に目を向け、その解決のために地域の方と協働する機会をつくる。</p>	<p>ア. 地域教育協議会への出席回数(昨年6回)。地域のイベント等への積極的関与。 地域の取組みでの本校の施設や特色ある授業の活用。</p> <p>イ. 社会リサーチにおいて、地域の方々から学ぶ取組みの実施。</p>	<p>ア. 地域教育協議会には、役員会幹事会等の会議には毎回出席し、その運営に深く関与している。本校ビオトープを活用して、地域に開いた取組みを実施。(2回)(○)</p> <p>イ. 本年度は「ソーシャルデザインワーク」を実施。地域課題を学び、その解決方法を考え、発表する取組みのプロセスを通じて、地域の方々(6人)に指導いただいた。(○)</p>